

B Pファシリテーター体験記 栃木県那須塩原市

まずははじめての一步を踏み出したい

「特定非営利活動法人キッズシェルター」理事 西田 由記子

助けていただいた恩は次の人に

私は結婚と同時に生まれ育った東京を離れ、夫の転勤のため4回の引っ越しを経て、今の住まいに落ち着いて13年になります。その間に現在高校1年、中学1年、小学3年になる3人の子どもたちが生まれ、出会った多くの方々の手助けを得て子育てをしてきました。それは私にとって大きな恵みでした。そのなかには助けていただくばかりで何の恩返しもできないまま転勤で会えなくなってしまった方、ちゃんとお礼も言えないまま病気で亡くなってしまわれた方もいます。そのことをとても悲しく思っていたとき、ふと、助けていただいた恩は助けてくださった本人に返そうとしなくても、自分ができるようになったときに次の人に順に送っていけばよいのだと思い至り、道が開けたような気がしました。

第3子を産んだとき助産院で、まもなく虐待の予防をめざし活動する「NPO法人キッズシェルター（以下キッズシェルター）」を立ち上げるとい話を聞き、まずはわずかながら活動資金の応援を、2年後から実際の活動に関わるようになり、さまざまな事情で短期間家庭で過ごせなくなった子どもたちを自宅で預かるようになりました（宿泊を伴う一時保育、ショートステイ）。今年キッズシェルターは10周年を迎えます。私自身は一昨年縁あって「那須塩原市ファミリーサポートセンター」の立ち上げに関わり、現在センターの責任者として、またアドバイザーとして日々仕事をしています。

やりたいことはまずやってみよう

昨年4月、栃木県の子ども政策課主催で「B Pファシリテーター養成講座」が開催されるので、ファミリーサポートセンターでも参加希望者がいればどうですかと、市の担当課から声がかかりました。ファミリーサポートセンターの立ち上げに関わり、市とのさまざまな交渉を引き受けてきた私は、それがどんなに良いものであったとしても、市の事業、あるいは市の委託を受けて行っているファミリーサポートセンターの事業として短期間で開催を実現させるのはとても難しいことだろうと、受講する前から感じていました。

そこで、養成講座受講については近く（県内）で無料で勉強できるまたとないチャンスを市からいただいたと感謝することにして、B P講座を早期に開催する方法は自力でなんとかできる別の道を探ろうと思いました。まずはB P講座を一度でもやってみることで、その実績と結果を手掛かりに広げていくのが近道ではないかと思いました。運よく養成講座参加の募集が、キッズシェルターの

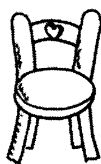
年次総会の時期と重なり、さっそく理事会で「B Pファシリテーター養成講座に行くのだけれど、良いものだったらぜひ今年度の年度計画にB P講座開催を入れてほしい。開催費用を予算にあげてほしい」と掛け合いました。キッズシェルターでは以前にNP講座を実施した経験があり、その赤ちゃん版というのは比較的イメージしやすかったこと、NP講座は託児の手配が大変だったけれどB P講座では託児がいらず少ないスタッフでできること、そして何よりもともと自分たちがやってみたいということはまずやってみよう（ただし手弁当で）という体質の団体であったことで、年度計画にのせてもらえることになりました。

数々の協力を得て

そして、ファシリテーター養成講座を受講。自分にこのファシリテーターが務まるのかという不安はあったものの、ぜひB P講座を早くに開催したいと改めて思いました。私は「こんなことやってみよう！」と題して、企画のテーマ、内容、対象者、時期、実現に向けてやること、課題（クリアしなければならないこと）、費用概算などを書き込む企画書を自分で作り、それを基に詳細はつめていきました。開催費用はキッズシェルターの理事長が栃木県経済同友会の助成金を申請、手配してくれました。

B P講座は対象となる親子がしばられているので、一民間団体のキッズシェルターが参加者をどのように募集するのかというのは大きな問題でした。栃木県那須塩原市は人口11万人超、年間の出生数が1050人前後。多いように見えても、この中で第一子で、しかも、講座が始まる時期に2～6か月児となると人数は限られます。これについては、ありがたいことに那須塩原市の子ども課をはじめ、保健センターが4か月児検診で、子育て相談センターが子育てサロンで案内の配布に協力してくださることとなりました。また、地域の産院や総合病院にも案内を置いてほしいとお願いしたところ、気持ちよく承知してくださいました。キッズシェルターの副理事長が助産院をもつ助産師であったことも大きな力でした。

このような数々の協力を得て2012年10月、9組の親子を迎え、初めてのB P講座を開くことができました。



心配は杞憂に

ファシリテーターをするにあたって私の一番の心配は、参加者がみんな黙って話が進まなくなってしまったらどうしようということでした。ファシリテーター養成講座を受講して、「話し合いの

参加者から教えてもらったプログラムの良さ

主役は参加者。ファシリテーターが話を無理に引っ張ったり、まとめたりしてはいけない」ということは頭では理解したつもりでしたが、養成講座の模擬セッションで沈黙に出会ったときには何となくかたくなで、とても焦りつい口を開きたくなくなりました。ところがどうでしょう。実際にやってみると、そんな心配は杞憂でした。第1回セッション時、最初から最後まで参加者の話が止まることはありませんでした。お母さんたちはみんなこんなに話がしたかったのかと驚くばかりでした。「同居している義父母が赤ちゃんを連れて外出すると病気になるというので、今まで病院に行く以外外出したことがなかった」というお母さんや、「県外から転入してきてお母さん友だちがいなかった」というお母さんもいて、この講座をととても喜んでくれて、第2回、第3回……とセッションを続けていく力をもらいました。

ファシリテーターはテキストを十分に読み込み、テキストの指示に忠実に講座を実施していくことが大切だと養成講座で学びました。その意味を、実際自分で講座を実施し、参加者の話を聞き、参加者の様子を目の当たりにして実感しました。このプログラムのよさをひとつひとつ参加者から教えてもらったといってもいいほどです。



講座後の振り返りの大切さ

今回講座を実施するにあたり、私とUさん、2人のファシリテーターで進めました。1回1回のセッションを私が前半、Uさんが後半、次は逆というように分担し、毎回2人が関わるようにしました。そして、終わったその日のうちに2人でその日のセッションがどうだったか振り返りの時間を持ちました。私にはこれが何よりよい勉強になりました。なぜなら、Uさんがファシリテーターをやっている間、私は少し離れたところからUさんと参加者の様子を見ることができ、ファシリテーターのありようで参加者の様子が変わってくることを実感できたからです。例えば、参加者同士で自然に話が進んでいるときにファシリテーターが話に入ってしまうと、それまで輪になって話していた参加者が一斉にファシリテーターの方を向いて話し始めてしまうこと、ファシリテーターの座る位置ひとつで話の流れが変わること、テキストの指示通り進めないと参加者にやるのがうまく伝わらないことなどよくわかりました。これらは、私自身も知らず知らずのうちにやってしまうだろうことで、外から見ているからこそ気づけたことです。もし、最初の開催のファシリテーターが自分1人だったら、きっとわからないままだったろうと思います。講座後の2人での振り返りの時間は、あれこれ言い合うこととなり、かなりシビアなものとなりましたが、それがあったからこそ第1回よりは第2回、第2回よりは第3回……

とセッションが進むごとに少しずつ改善されていたのだらうと思います。

この講座が対象となる親子を、「初めての赤ちゃん」「月齢2か月～6か月」ととても細かく定めているのにもちゃんと理由があることも、講座を進めるなかで実感しました。実は今回、講座のスタート時点で、月齢2か月に満たない赤ちゃん、月齢が6か月より数日過ぎた赤ちゃんをもつお母さんがいました。参加人数が当初の予定より少なかったため、私たちもついそれくらいいいかと勝手な判断をして参加をOKしてしまったのですが、やはり参加者自身話に入り込みきれないところがあつたように感じました。

同じぐらいの月齢の赤ちゃんのお母さんだからこそ、「大変なのは自分だけじゃないんだと思ひ、もう少し頑張ってみよう」と励まされるのです。「これまで友だちに話しても、友だちはみんな子どもが大きくなっているのだから、『最初はそんなものだよ』と流されてしまったが、ここでは流されない。それがよかった」と話してくれたお母さんがいました。はっとしました。私も励ますつもりでできっと同じことを言ってしまうのだらうと思ひました。でも、お母さんたちが欲しいのはそういう言葉ではなかったのですね。

やってよかった

講座の最後に出たお母さんたちの声をそのまま少し挙げてみます。

- ・毎週行くのが楽しみで、朝早くから準備するので、生活にハリがでた。
- ・ここへ来るまでは、いろいろ頭で考えていたが、子育てってこういうものだと思ひ割り切ることができるようになった。
- ・今まで気になっていた自分の子どものくせが気にならなくなり、逆に気づかたなかったことに気づいたり、視野が広がった。
- ・自分なりのやり方で子育てを楽しめばよいのだと分かった。
- ・こういうふうには1つの話題について深く考えることがなかったので、いろいろな悩みを共有していけたら、と思ひ。

まだまだありますが、どれもファシリテーターとしてこの講座をやつてよかったと思ひしみじみ感じられる言葉でした。「少し先の子育ての知識を得る」というのもこの講座の大切な目的ですが、それは誰かが教え、与えるものではなく、テキストやDVD、そして何より仲間の手助けを借りながら自分で見つけていくものなのだと思ひました。

今回、参加者の声をぜひ多くの方に知ってもらいたいと思ひ、ごく簡単な報告書にまとめ、講座開催にあたりご協力いただいた関係諸機関にお礼をかねてお配りしました。少しでもBP講座のよさが伝わっていることを願ひます。次年度はさらに一歩先に進みたいと思ひています。